Dynamic Factor Model について

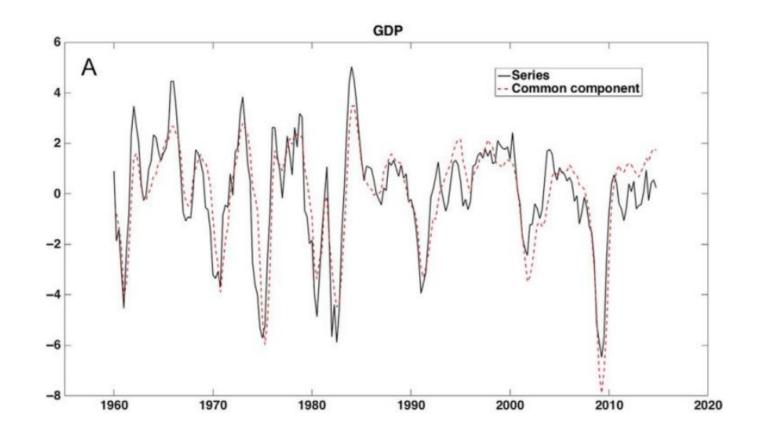
2023/7/12

仲山

ダイナミックファクターモデル(DFM)とは?

- DFMは、多数の時系列データの共通の動きを、少数の観測できない潜在的なファクターから説明しようとするモデル
- 多数のマクロ経済変数からGDPを推計するナウキャスティングなどに用いられている

• 例1:アメリカの58の四半期ごとの経済指標に対してシングルファクターのDFM を適用した結果とGDP



[引用]http://www.princeton.edu/~mwatson/papers/Stock_Watson_HOM_Vol2

• 推定にGDPは使用していないが、GDPとの決定係数は0.73と高くなっている

ダイナミックファクターモデルの基本的な形

$$egin{aligned} y_t &= \Lambda f_t + u_t \ f_t &= A_1 f_{t-1} + \dots + A_p f_{t-p} + \eta_t & \eta_t {\sim} N(0,I) \ u_t &= C_1 u_{t-1} + \dots + C_p u_{t-p} + \epsilon_t & \epsilon_t {\sim} N(0,\Sigma_\epsilon) \end{aligned}$$

 y_t :時点tでの観測データ(例えば、経済指標)

 f_t :時点tでの共通ファクター

 Λ : 共通ファクターの影響度合いを示すパラメータ行列(ファクターローディング・

因子負荷行列)

 u_t :時点tでの観測データの誤差項

A: 共通ファクターの自己相関を示すパラメータ、 η_t は時点tでの共通要素の誤差項

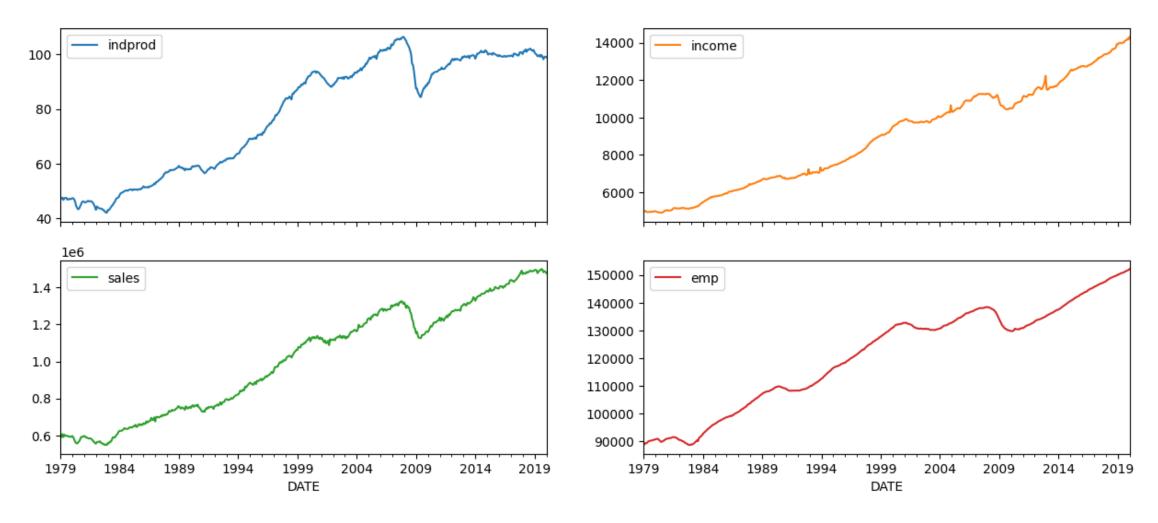
C:誤差項の自己相関を示すパラメータ、 ϵ_t は時点tでの誤差項の誤差項

※共通ファクターの誤差項の分散は単位行列

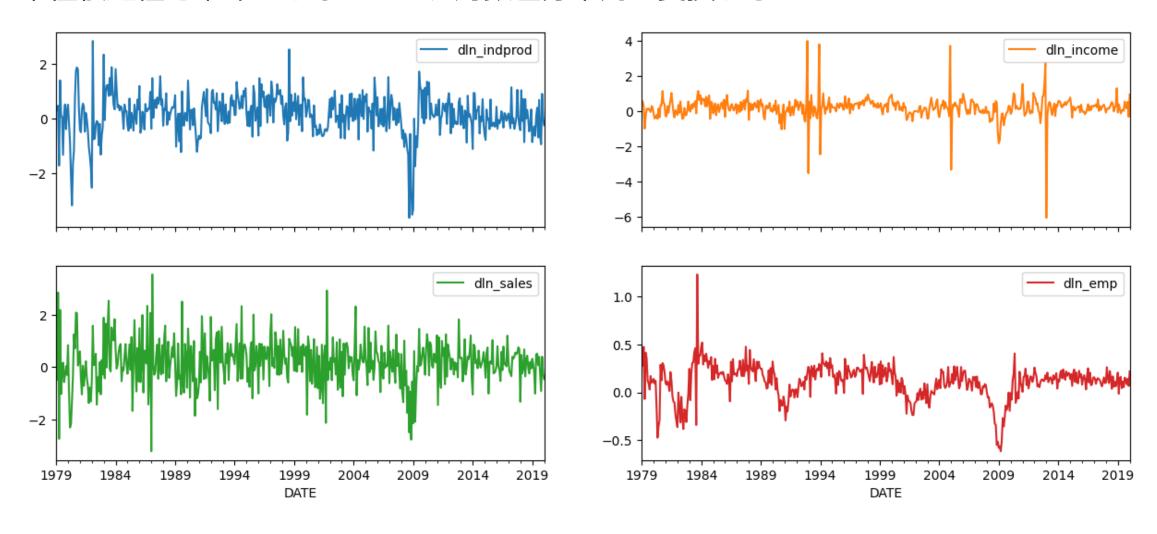
例:以下の米国の4つのマクロ経済の系列から1つの共通ファクターを作成する

- 鉱工業生産(製造業)[indprod]: Industrial Production: Manufacturing (NAICS)
- 実質個人所得 [income]: Real personal income excluding current transfer receipts
- 実質製造業および貿易産業売上高 [sales]: Real Manufacturing and Trade Industries Sales
- 非農業部門従業員数[emp]: All Employees, Total Nonfarm
- ※データはすべて月次で季節調整済み
- ※データはFred(https://fred.stlouisfed.org)より取得

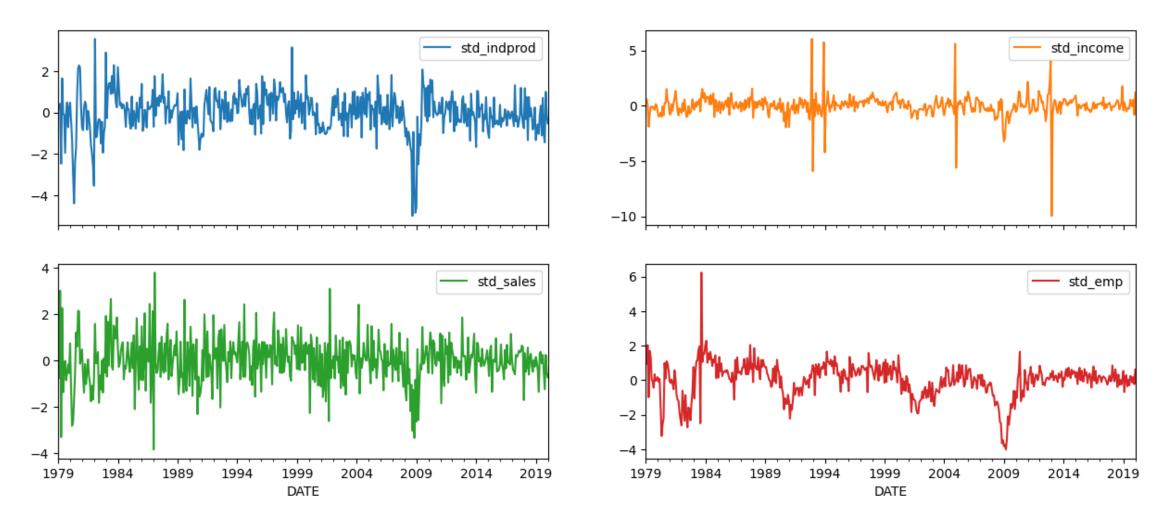
取得した4つの系列(1979年~2019年)



単位根過程を棄却できないため、対数差分系列に変換する



さらに標準化した系列を分析対象とする



モデルの設定

今回は以下のような設定で分析を行った

$$egin{align} y_{i,t} &= \lambda_i f_t + u_{i,t} \ f_t &= a_1 f_{t-1} + \eta_t & \eta_t {\sim} N(0,I) \ u_{i,t} &= c_{i,1} u_{i,t-1} + \epsilon_{i,t} & \epsilon_t {\sim} N(0,\Sigma_\epsilon) \ \end{pmatrix}$$

- 共通ファクターは1つとする
- 共通ファクター及び誤差項はAR(1)に従うとする
- 誤差項はVARではなく、それぞれ独立したAR過程に従うものとする

パラメータの推定

- pythonのライブラリstatsmodels使用してパラメータを推定する
- Scipyで利用可なパウエル法による実行結果を初期値として、最尤法でパラメータを推定

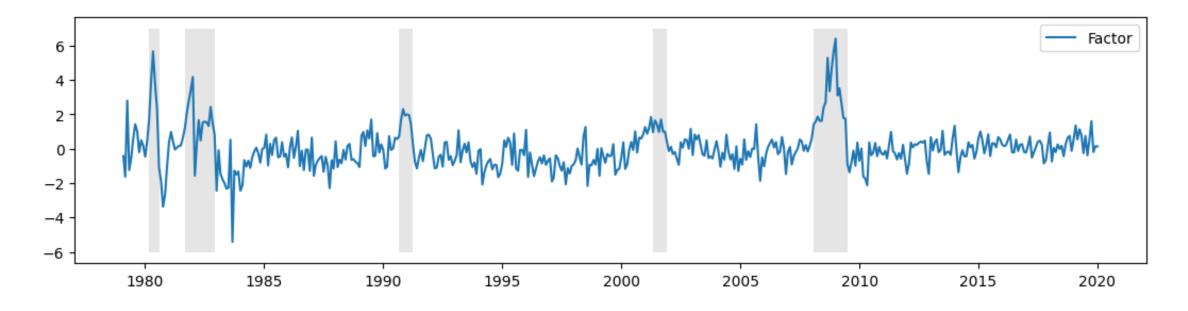
```
import statsmodels.api as sm

model = sm.tsa.DynamicFactor(endog, k_factors=1, factor_order=1, error_order=1)
initial_res = model.fit(method='powell', disp=False)
res = model.fit(initial_res.params, disp=False)
```

結果

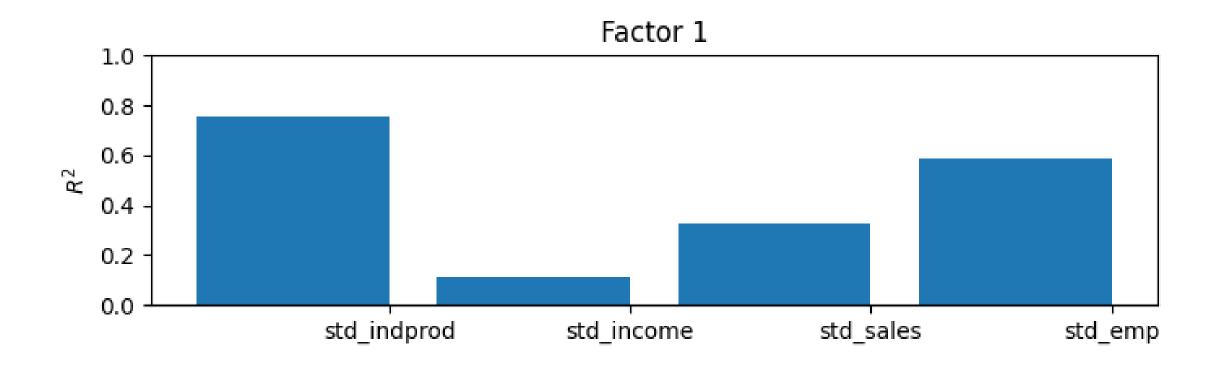
Dep. Variable: ['std_indprod', 'std_income', 'std_sales', 'std_emp'] No. Observations: Model: DynamicFactor(factors=1, order=1) Log Likelihood + AR(1) errors AIC Date: Tue, 11 Jul 2023 BIC							492 -2423.402 4872.803 4927.383 4894.235
mple: 02-01-1979							
Covariance Type:	- 01-01-2020 opg						
=======================================	coef	====== std err	z	====== P> z	========= [0.025	0.975]	
loading.fl.std_indprod	-0.6234	0.032	 -19.476	0.000	 -0.686	-0.561	
loading.fl.std_income	-0.2379	0.034	-7.077	0.000	-0.304	-0.172	
loading.fl.std_sales	-0.3918	0.024	-16.376	0.000	-0.439	-0.345	
loading.fl.std_emp	-0.5283	0.044	-12.085	0.000	-0.614	-0.443	
sigma2.std_indprod	0.3150	0.038	8.267	0.000	0.240	0.390	
sigma2.std_income	0.8777	0.020	43.448	0.000	0.838	0.917	
sigma2.std_sales	0.6018	0.038	16.036	0.000	0.528	0.675	
sigma2.std_emp	0.3156	0.033	9.539	0.000	0.251	0.380	
L1.f1.f1	0.6313	0.031	20.461	0.000	0.571	0.692	
L1.e(std_indprod).e(std_indprod)	-0.3274	0.077	-4.227	0.000	-0.479	-0.176	
L1.e(std_income).e(std_income)	-0.1725	0.020	-8.836	0.000	-0.211	-0.134	
L1.e(std_sales).e(std_sales)	-0.4087	0.038	-10.832	0.000	-0.483	-0.335	
L1.e(std_emp).e(std_emp)	0.6085	0.041	14.975	0.000	0.529	0.688	
Ljung-Box (L1) (Q): 3.45, 0.05 Prob(Q): 0.06, 0.8	0.81, 33.01 Jarque-Bera (JB) , 0.37, 0.00 Prob(JB):						
Heteroskedasticity (H): 0.75, 3.4					0.27, -1.18, 0.15, 1.34		
	0, 0.00, 0.0			6.54, 31.26, 3.79, 21.86			

共通ファクター



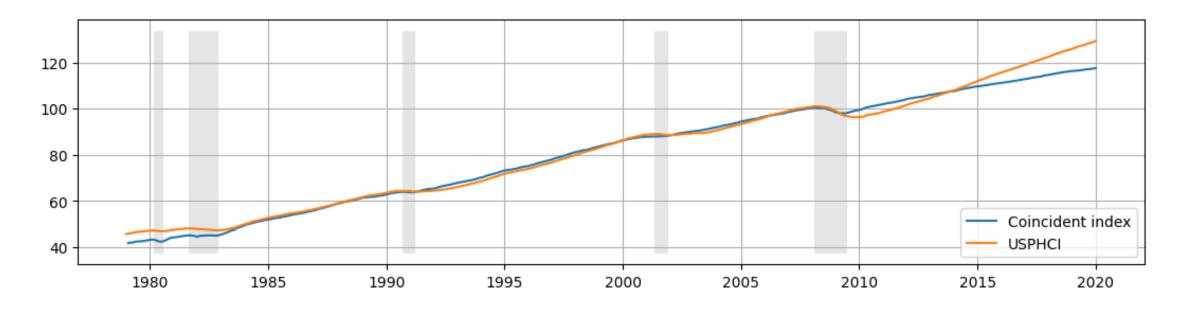
- ※背景が灰色の部分はNBER(全米経済研究所)が認定した景気後退局面
- ⇒ 景気後退局面でスコアが上昇している

共通ファクターによる決定係数



他系列との比較

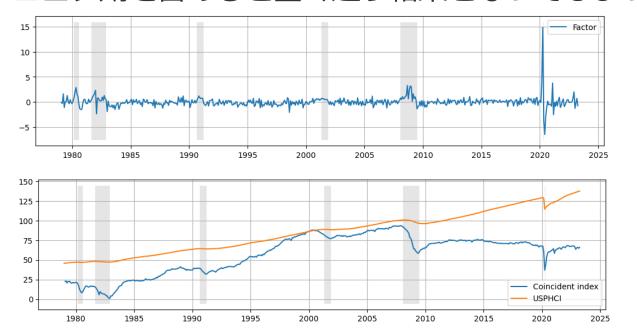
フィラデルフィア連銀の米国景気一致指数(USPHCI)との比較



- ※ フィラデルフィア連銀の米国景気一致指数は、州ごとの非農業部門雇用者数、製造業の平均労働時間、失業率、賃金・給与(物価調整後)の4つの系列を使用してダイナミックファクターモデルで算出している
- ※ 2000年1月を基準として2系列の水準を合わせている

課題

• コロナ期を含めると全く違う結果となってしまった



• ファクターの数を変えると結果が大きく変わってしまうこともあったため、DFM のパラメータ推定方法など中身の理解をする

参考

- https://www.dir.co.jp/report/research/economics/outlook/20210226_022119.pdf
- https://www.statsmodels.org/dev/examples/notebooks/generated/statespace_dfm _coincident.html
- http://www.princeton.edu/~mwatson/papers/Stock_Watson_HOM_Vol2
- https://www.apir.or.jp/wp/wp-content/uploads/20200911_S4-3_MrKajita.pdf
- https://www.atlantafed.org/-/media/documents/research/publications/wp/2014/w p1407.pdf
- https://www.chadfulton.com/topics/statespace_large_dynamic_factor_models.html

番外編

- 今回はMarpというライブラリを用いてスライドを作成した
- MarpはMarkdownからプレゼンスライドを生成してくれるツール
- ChatGPTに「Marp for VS Codeを使用したMarkdown形式のコードで出力してください」等の指示をして、出力されたものをVS Codeに貼り付ければスライドが完成する(かもしれない)

• VS Codeでプレビューでき、PDFエクスポートもできる

